参考資料1

国道5号 創成川通 前回委員会での主な意見と対応

令和2年 2月27日

国土交通省 北海道開発局

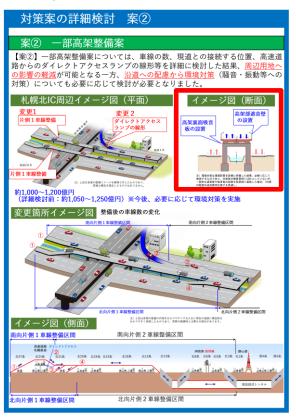
■前回委員会での主な意見と対応

主な意見	対応	第3回説明資料·参考資料
・市民への情報提供では、対策案の詳細検討により 何が変わったかを丁寧に説明し、構造案が市民にも わかりやすいものとなるよう工夫した上で、意見をも らうことが重要。	 ・オープンハウス(職員常駐型パネル展)では、詳細検討を含む創成川通の検討状況を市民の皆様に丁寧に説明をした。 ・詳細検討後の各対策案(【案①】【案②】【案③】【案④】)について、構造を分かりやすく説明するためイラストやCGイメージのパネルを作成し、オープンハウスにて市民の皆様に丁寧に説明をした。 	第3回説明資料のP14、P15に、オープンハウスの実施概要、P20、P21、P22、P23、P24、P25、P26にオープンハウスの意見を整理。 第3回説明資料のP16、P17、P18、P19に、各対策案(【案①】【案②】 【案③】【案④】)のCGイメージを掲載。
・高架構造の場合、創成川通によって東西が分断され、創成川が市民にとって近寄りにくい空間となって しまうのではないか。騒音等の環境面でも懸念がある。	・整備後の創成川通の構造の違いをイメージしてもらうため、オープンハウスにて詳細検討後の各対策案(【案①】【案②】【案③】【案④】)のCGイメージのパネルを作成し市民の皆様に丁寧に説明した。 ・併せて騒音等の環境対策が必要な場合における環境対策整備後のイラストを作成し、オープンハウスにて市民の皆様に丁寧に説明をした。	第3回説明資料のP16、P17、P18、P19に、各対策案(【案①】【案②】 【案③】【案④】)のCGイメージを掲載。 参考資料1のP2に、高架構造が存在する対策案(【案②】【案③】)の環境対策内容を整理。
・雪の影響や将来的な除雪等のコスト等を考えると地 下構造が望ましいが、最近の豪雨事象等を踏まえ、 雨水・下水等の災害時の計画を関係機関と調整して おく必要があるのではないか。	・概略ルート・構造の決定後、河川管理者や下水管理者等の関係機関との協議を行い検討する予定。また、浸水対策の事例について整理。	参考資料1のP3、P4、P5に、浸水対 策事例を整理。
・時間短縮は市民目線だけでなく、たとえば飛行機で羽田から新千歳まで1時間半で移動した後、信号で何度も停止することなく、札幌市内へスムーズに移動できるという視点も重要。	・現状創成川通における札幌北IC~札幌都心の冬期における混雑により、 著しく移動時間のばらつき大きく、道路利用者にとって移動時間が読め ないなどの現状の課題を市民の皆様に丁寧に説明。	第3回説明資料のP15に、情報提供 の内容を整理。 参考資料1のP7に、観光利用への 期待に関する内容のパネルを掲載。

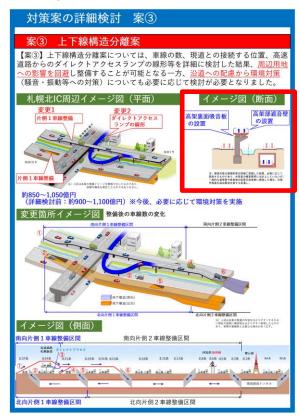
○環境対策

○本線に高架構造が存在する【案②】【案③】については、騒音等の環境対策が必要となる場合があるため、 環境対策整備後のイメージ図を作成し、オープンハウスのパネル展示にて説明を実施。

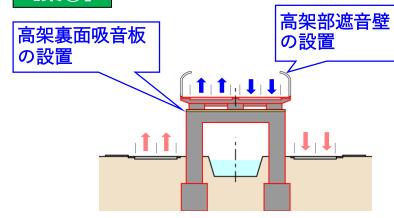
▼【案②】一部高架整備 詳細検討案



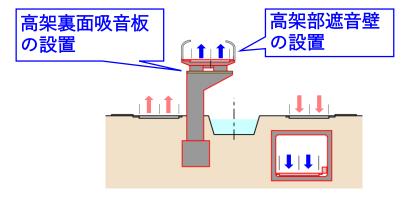
▼【案③】上下線構造分離 詳細検討案



【案②】



【案3】



注)環境対策は環境影響を詳細に把握した結果、必要に応じて 実施するものであり、対策案の概算費用には計上していない が、一般的な遮音壁や吸音板の設置を高架部に実施した場合、 【案②】で150億円程度、【案③】で50億円程度の追加費用 を要する見通し。

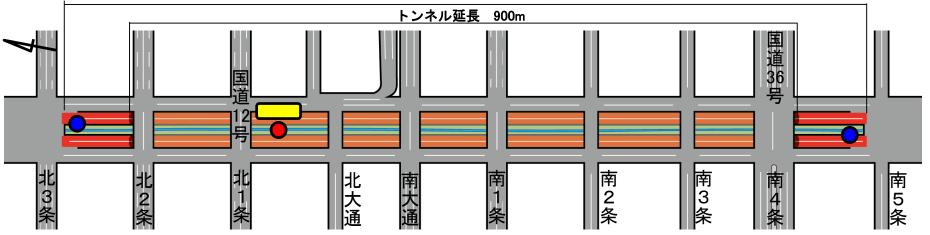
2

○浸水対策事例

○既設創成トンネルの浸水対策事例について紹介

トンネル区間 南5条通~北3条通 トンネル延長 約900m ● 警報表示板 水深表示 ● 道路排水ポンプ

トンネル延長+接続区間延長 1,100m



●警報表示板



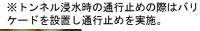
- ・事前に情報提供を実施するためスロープ端部に警報表示板を設置。
- ・トンネル内の水位計が10cmに達した段階で「冠水注意」、20cmになると「冠水通行止め」と表示され、ドライバーに速やかに情報提供を行う。

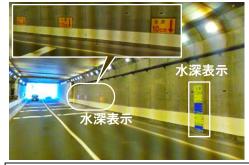
●道路排水ポンプ



- ・トンネル区間で最も勾配が低い位置に設置。 (北側トンネル端から約150m付近に設置)
- ・局地的な大雨等による浸水防止をするとと もに、道路冠水による通行止めの際も速やか に道路を開放できるよう浸水の排除を行う。

□水深表示





- ・トンネル区間で最も勾配が低い位置に設置。 (北側トンネル端から約150m付近に設置)
- ・トンネル内の水深の目安となるものであり、 道路通行者が水深を確認でき、また水深表示 を監視カメラ (CCTV) により24時間体制での 常駐監視を行っており、浸水発生時の警報表 示板表示などの判断も可能となる。

○浸水対策事例

○浸水対策の参考事例について紹介

■参考1:ランプ部のゲートによる浸水対策

【淀川陸閘の参考】:鋼製ゲート百選(水門の風土工学研究委員会)より



設置場所 右岸:大阪府大阪市西淀川区花川2丁目 左岸:大阪府大阪市福島区海老江3丁目

設置河川 淀川(1級河川)

ゲート式 シェル構造180°回転式ゲート

設置文数 左岸右岸各1

寸 法 径間24.0m×扉高3.03m(右岸)

24.0m× 2.50m(左岸)

建 設 年 平成4年(1994)

建 設 者 近畿地方建設局

施工会社 (株)栗本鐵工所(右岸)

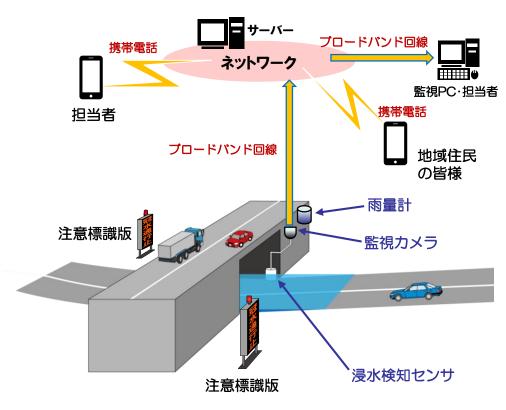


参考2:ドライバーへの情報周知

【センサーと組み合わせた警戒情報の配信の取組例】 NTTInfraNetのHPを参考に作成

・浸水情報をリアルタイムでメール配信することにより迅速に通行止等の対策を講じることが可能になる。

監視カメラを併設し、監視効果を高め、浸水検知計・雨量計等の各種センサーからから得られた情報を、通行止め表示板・回転灯・自動遮断機により通行者に対し注意喚起。



○浸水対策事例

参考3:車両浸入防止用の遮断機など

【物理的な通行規制措置の参考】:総務省中部管区行政評価局H30.3.29報道発表資料より

【例3】物理的な通行規制措置(固定設備)

大雨により冠水したアンダーパスに道路通行者が進入しないための通行規制措置は、主にバリケード(工事現場等で見られるもの) を現場へ運び設置することにより行われているが、下図のような設備の整備例もみられる。(当局現地調査193か所中18か所で設置)

◆三重県の例



◆岐阜県の例



◆愛知県の例(仮封鎖)

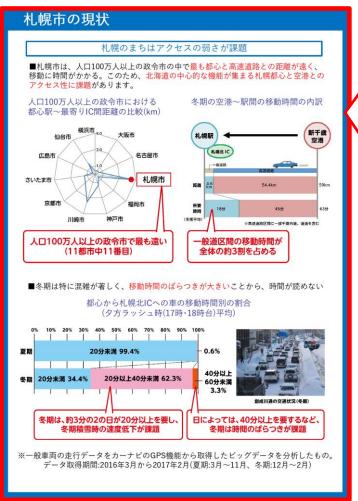


道路冠水想定箇所に設置された水位センサーと連動し 通行止水位に達した時点で膨張。通行止めのため、委 託業者が到着するまでの間、仮封鎖を行うことが可能

○札幌市の現状課題、観光利用への期待

〇創成川通区間の時間短縮が広域に効果があることを説明するため、札幌市の現状課題および観光利用への期待に関する内容等をパネル展示し、市民の皆様に丁寧に説明。

▼札幌市の現状課題



【札幌市の現状課題】

- ・札幌市は人口100万人以上の政 令市の中で、<u>最も都心と高速道</u> 路との距離が遠く、移動に時間 がかかる
- ・現状創成川通における札幌北IC ~札幌都心の冬期における混雑 により、著しく移動時間のばらつ き大きく、道路利用者にとって移 動時間が読めない

【観光利用への期待】

- ・バス事業者ヒアリング結果: 都心アクセス強化による、定 時性の向上や札幌市内での滞 在時間増加への期待
- ・札幌都心発着でレンタカーを 利用する<u>インバウンド観光客</u> <u>の8割が高速</u>を利用、また<u>札</u> 幌北ICを最も利用
- ・<u>新千歳空港利用者の6割が目</u> <u>的地を札幌市</u>と回答、また6 割が道路を利用する交通手段 で移動

▼観光利用への期待

